

## 景気の概況

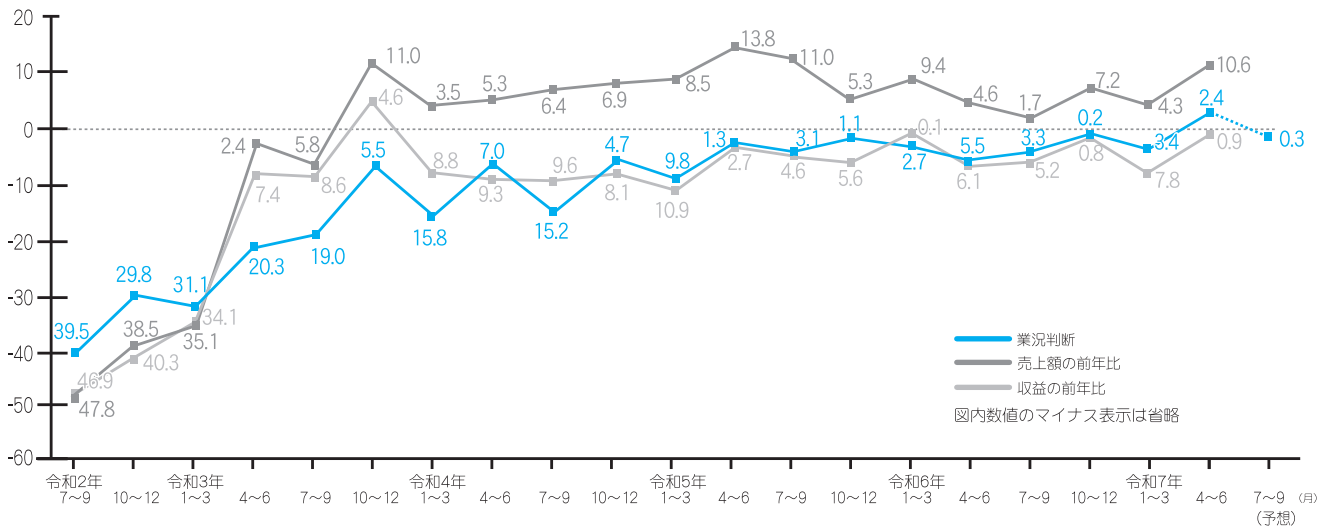
### ● 経済・物価の現状と見通し

わが国の景気は、一部に弱めの動きもみられるが、緩やかに回復している。海外経済は、各国の通商政策等の影響を受けて一部に弱めの動きもみられるが、総じてみれば緩やかに成長している。輸出や鉱工業生産は、一部に米国の関税引き上げに伴う駆け込みの動きがみられるが、基調としては横ばい圏内の動きを続けている。企業収益が改善傾向にあるも、設備投資は緩やかな増加傾向にある。個人消費は、物価上昇の影響などから消費者マインドに弱さがみられものの、雇用・所得環境の改善を背景に緩やかな増加基調を維持している。住宅投資は弱めの動きとなっている。公共投資は横ばい圏内の動きとなっている。わが国の金融環境は、緩和した状態にある。物価面では、消費者物価(除く生鮮食品)の前年比をみると、賃金上昇の販売価格への転嫁の動きが続くも、既往の輸入物価上昇や米などの食料品価格上昇の影響もあって、足もとでは3%台半ばとなっている。予想物価上昇率は、緩やかに上昇している。

先行きのわが国経済を展望すると、各国の通商政策等の影響を受けて、海外経済が減速し、わが国企業の収益なども下押しされるも、緩和的な金融環境などが下支え要因として作用するものの、成長ペースは鈍化すると考えられる。

2025年6月 日本銀行

### ● 業況判断及び売上額・収益の前年比DIの推移(全業種合計)



### この調査のご案内

- 調査の時期 令和7年6月2日(月)~6日(金)
- 調査対象 当金庫お取引先企業数 457社  
回答企業数 456社 (回収率 99.8%)
- 調査方法 調査員による面接聞き取り法、またはご回答企業による直接記入法
- 分析方法 この調査の分析はDI(ディーアイ)を景気判断の指数として用います。  
※DIは、「増加」「上昇」「楽」と答えた企業割合から「減少」「下降」「苦」と答えた企業割合を差し引いた数値のことです。

(注) この天気図は本調査のDIを総合的に判断し作成したものです。



### ● 業種別・従業員(除くパート)規模別調査対象企業数

	製造業	卸売業	小売業	建設業	不動産業	サービス業	合計
1~4人	22	21	57	27	36	19	182
5~9人	21	6	17	19	12	8	83
10~19人	18	9	6	29	4	8	74
20~49人	21	4	10	17	5	6	63
50~99人	13	3	2	4	1	2	25
100人以上	6	2	7	1	4	9	29
合計	101	45	99	97	62	52	456

# 全業種総合 業況は厳しさが和らぐ

前期	当期	来期

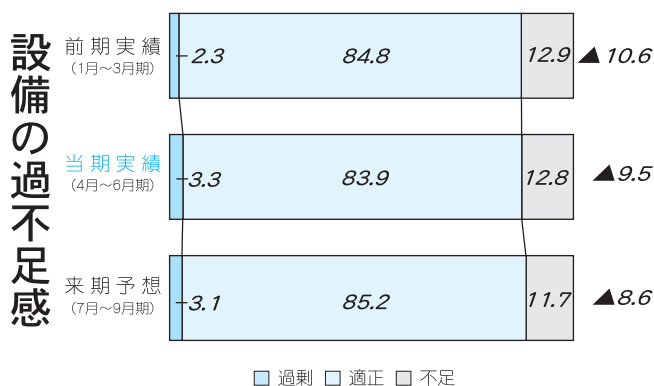
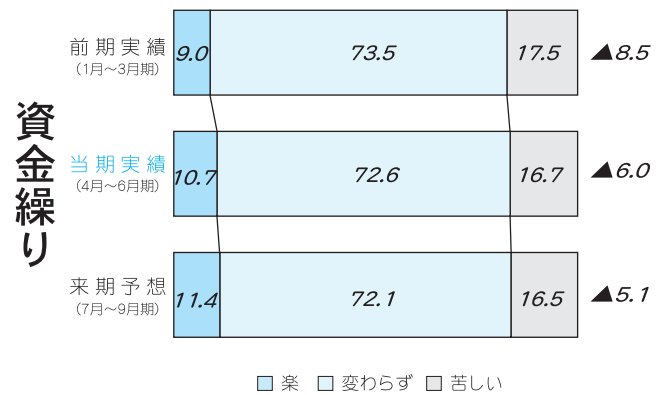
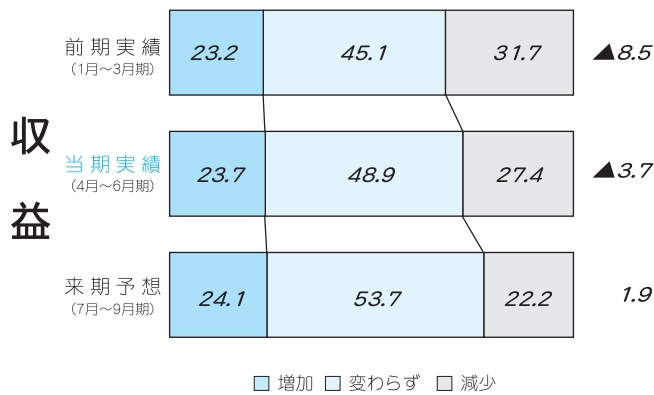
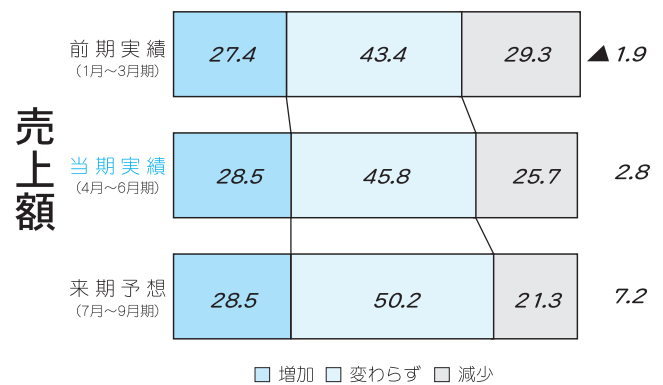
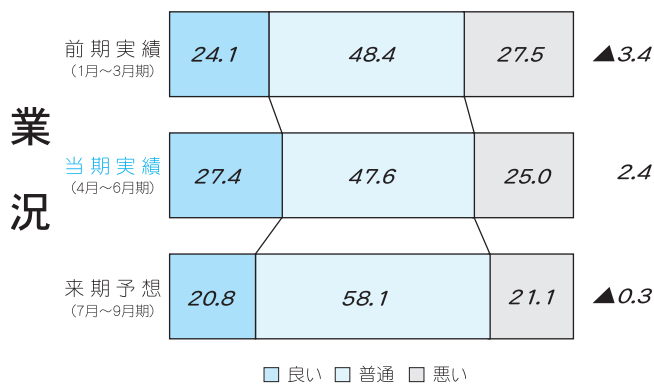
当金庫営業エリア内の「中小企業景気動向調査」による全業種の業況判断DIは、前期△3.4から当期2.4とやや好転に転じました。(前回調査時における当期予想は△6.0)

来期は△0.3と再びマイナス転換する予想となっています。

天気図でみますと、総合では前期、当期、来期と「薄曇り」が続いています。

業種別では、製造業・小売業・建設業・不動産業・サービス業においては前期から「薄曇り」が続いています。卸売業では「曇り」から「薄曇り」へ好天しました。

来期は、建設業において「薄曇り」から「晴れ」になり、その他の業種においては「薄曇り」が続く予想となっています。



## ● 設備投資の実施割合

